

No.10

応募企画において主として開発、挑戦した内容について記述してください。

【狙い】

応募企画が、どのような課題の解決に取り組んでいるのかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは、「世界の重要な課題を解決する良質なプロジェクトを発信するプログラム」です。それを踏まえ、この項目では、あなたが、どれだけ重要な課題に取り組んでいるのかをアピールしてください。より重要な課題に取り組んでいる方が、ベストプラクティスにふさわしいと言えます。また、特定の国・地域、あるいは一部の事業分野に限定された課題である場合よりも、世界共通、世界全体の課題に取り組んでいる方が、ベストプラクティスにふさわしいと言えます。

例えば、カーボンニュートラルやネイチャーポジティブ（これらが何を指すか分からなければ、ぜひネット検索してみてください）など、世界的に重要であることが世の中に認識されている課題に取り組んでいる場合は、「世界的な課題である〇〇の解決に取り組んでいます」のように、そのことを示してください。

もし、世界的に重要な課題だと世の中に知られているとは限らない場合は、あなたの取り組んでいる課題が、いかに重要であるか、いかに世界的な課題であるかを説明・アピールしてください。

仮に世界的に重要な課題に取り組んでいるのか自信がない場合であっても、取り組んでいる課題を、ご自身がいかに重要と考えているかをアピールしてください。ただし、冒頭に示したベストプラクティスの趣旨を踏まえ、例えば「TEAM EXPO 2025」プログラムでの共創等を通じて、より重要な課題に挑戦する取り組みにした上で応募することについても検討してもらえればと思います。

なお、取り組みの具体的な内容や、どのように課題を解決するのかといったことについては、別の項目（16）で記載を求めていますので、そちらに記入してください。ここに書く必要はありません。ここには、あくまで取り組んでいる課題の内容、そしてそれがいかに重要な課題なのか、解決すべき問題であるのか、を記入してください。

No.11

応募企画が万博テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」をどのように体現しているのかについて記述してください。効果的なパートナーシップによる共創を実現している場合は、それについても記述してください。

【狙い】

この項目の狙いは二つです。

まず、応募企画が、大阪・関西万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」をどのように体現しているのかを確認します。

また、応募企画が特定の個人や一企業によるものなのか、それとも効果的なパートナーシップによる共創を実現しているのかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「万博テーマとの親和性」を掲げており、大阪・関西万博のベストプラクティスには、「いのち輝く未来社会のデザイン」を体現するプロジェクトが選ばれます。それを踏まえ、この項目では、あなたの応募企画が、どのようにテーマの体現に関係しているのかをアピールしてください。万博テーマと関係のない取り組みは、ベストプラクティスには選ばれません。

例えば、応募企画の実現が、いかに人々のいのち（人間以外のいのちの場合もあるでしょう）を輝かせるのか、どのような未来社会を導くのか、をアピールしてください。

また、特定の個人や一企業による取り組みよりも、効果的なパートナーシップによる共創を実現している方がベストプラクティスにふさわしいと言えます。ただし、このことは必須ではなく、特定の個人や一企業による取り組みはベストプラクティスに選ばれない、ということはありません。ただし、例えば「TEAM EXPO 2025」プログラムでの共創等を通じて、より効果的なパートナーシップによる共創を実現した上で応募することについても検討してもらえればと思います。

No.12&13

応募企画はどのサブテーマに関連しますか。(複数選択可)

応募企画が上記で選択したサブテーマとどのように関連しているのかを記述してください。

【狙い】

応募企画が、どのサブテーマとどのように関連しているのかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「万博テーマとの親和性」を掲げており、ベストプラクティスに選ばれるプロジェクトは、大阪・関西万博がサブテーマとして掲げている「いのちを救う」、「いのちに力を与える」、「いのちをつなぐ」のいずれかに関連することが期待されます。これを踏まえ、まずNo.12では、応募企画が、どのサブテーマに関連しているかを選択してください。続くNo.13では、応募企画が、選択したサブテーマとどのように関連しているかをアピールしてください。サブテーマと強く深く関連している方が、ベストプラクティスにふさわしいと言えます。

応募企画の内容が、複数のサブテーマと関連する場合もあるでしょう。その場合は、No.12で複数のサブテーマを選び、No.13でそれぞれのサブテーマごとに、関連の深さをアピールしてください。

なお、関連するサブテーマの数が多いほどベストプラクティスにふさわしいというわけではありません。無理に多くのサブテーマを選ぶ必要はなく、強く深く関連しているサブテーマについてのみ記述すれば十分です。もし、一つには絞れないという場合は、複数のサブテーマとの関連をアピールしてください。

No.14

現在の応募企画を活動展開している国・地域を選択してください。

【狙い】

応募企画が、複数の国・地域に展開しているのかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「地域展開の可能性」を掲げています。

ベストプラクティスとなるプロジェクトは、複数の国・地域に展開できるものであることが求められます。ここでは、現時点で、どれだけ複数の国・地域に活動が展開されているかを示してください。

複数の国・地域に展開している方がベストプラクティスにふさわしいと言えますが、現時点で単一の国・地域での活動であっても、それを理由にベストプラクティスに選ばれない、ということはありません。今後、他の地域に展開する可能性があるかどうかは、別の項目(15)で記載を求めていますので、ここでは現時点で展開している国・地域を、ありのまま示してください。

なお、大阪・関西万博では、20-30のベストプラクティスを選定する予定にしていますが、それらが特定の国・地域の活動に偏ったり、ある地域の活動が全くないということ为避免のため、この欄を参照するかもしれません。

No.15

応募企画の課題解決策が、他の地域（特に海外）に展開しているか、または展開できる可能性があるかについて記述してください。

【狙い】

応募企画が、複数の地域に展開しているか、または展開できる可能性があるのかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「地域展開の可能性」を掲げています。

ベストプラクティスとなるプロジェクトは、複数の国・地域に展開できるものであることが求められます。複数の国・地域に展開できない活動は、ベストプラクティスには選ばれません。

したがって、もし応募企画が、すでに複数の国・地域に活動が展開されている場合は、そのことをアピールしてください。また、将来的に他の地域（特に海外）に活動が展開される可能性がある場合は、いかに広い地域に展開される可能性があるのか、他の地域に展開される可能性がいかに高いのかをアピールしてください。例えば、必要資材の調達が容易である、技術が簡易である、やる気さえあれば誰でもできるなど、誰もが実施しやすい内容であることをアピールするのが効果的です。資材が高額であったり希少である場合や、特定の地域、特に先進国でなければ実施が難しいような取り組みよりは、どの国・地域でも実施できる取り組みのほうがベストプラクティスにふさわしいといえます。

もし、あなたが複数の国・地域に展開できるのか分からない場合であっても、選定過程において、選定委員が、複数の国・地域に展開する可能性があるかと評価するかもしれません。したがって、複数の国・地域に展開することを具体的にアピールできない場合であっても、例えば、求めがあれば他の国に活動を広げる意欲がある、ということをアピールしてもよいです。

No.16

応募企画がどのような課題をどのように解決し、社会・経済・環境にどのような影響を与えるのか、その確実性・実現可能性などの観点も含めて、できるだけ具体的に記述してください。すでにより影響を生み出している場合はそれを示してください。

【狙い】

この項目の狙いは二つです。

まず、社会課題の解決に大きく貢献するプロジェクトであるかどうか（影響範囲が広い、状況改善程度が大きい、受益者が多い、など）を確認します。

また、効果が具体的で確実性が高いものであるかどうかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「インパクトの確実性」を掲げています。

ベストプラクティスとなるプロジェクトは、人類の生活の質を高める内容で、明確かつ、目に見えるインパクトを持つものであることが求められます。それを踏まえ、二つの面、具体的には、「取り組みが生み出す効果が大きい、あるいは質的に価値が高いものかどうか」と、「効果が具体的で確実かどうか」を確認します。

そのため、まずは前者の、取り組みの生み出す効果がいかに大きいか、また質的に価値がいかに高いかをアピールしてください。片方でも両方でもかまいません。効果が大きいほど、また質的に価値が高いほど、ベストプラクティスにふさわしいと言えます。効果の大きさや質的な価値の高さの説明は難しいものですが、実績をもとに具体的に記述できることがある場合は、説明に加えるのがよいでしょう。例えば、何人の生活が改善した、緑地面積をどれだけ増やした、飲料水をどれだけ提供した、といった説明です。効果の説明は、「これまでにこれだけの効果を生んでいる。取り組みが〇〇に広がれば、さらにこれだけの効果が期待できる」のように、現状と将来に分けて書くと、より分かりやすく審査側に伝わるでしょう。

また、後者の「効果が具体的で確実かどうか」は、取り組みの効果が具体的に起こること、確実に起こることをアピールしてください。具体的な効果とは、取り組みを実施することにより、どのように効果が発生するのか、その恩恵を受けるのは誰なのか、その過程を具体的に示すのがよいでしょう。例えば、植林により年間どれだけの森林が育成し何トンの炭素が固定するとか、就業あっせんの取り組みにより障がいを持つ人の何人の雇用が実現し、いくらの所得向上が見込まれる、といった説明です。逆に、「この取り組みは地球温暖化防止に貢献する」、「多くの人々が幸せになる」のように、抽象的であったり、なぜその効果が発生するのか、という説明が十分ではなかったりする場合、高い評価を得るのが難しいでしょう。また、効果の確実性・実現可能性については、過去の事例や実証実験などによって、効果が出ることが立証されているかどうか、をアピー

ルしてください。すでに効果が出た実績を持っている場合は、それを説明するのがわかりやすいです。すでに効果が出ていないとベストプラクティスに選ばれない、ということはありませんが、効果が確実に出るかどうか分からない場合や、活動の宣言だけをしていてまだ実際の活動がない、といった場合は、効果が確実に出るような活動を行ったうえで応募することについても検討してもらえればと思います。

No.17

応募企画が持続可能性にどのように配慮されているのか、また、どのようによりよい未来の実現に貢献するのかについて記述してください。

【狙い】

この項目の狙いは二つです。

まず、応募企画が持続可能性を確保しているかどうか、または持続可能性に配慮しているかどうかを確認します。

また、社会や地球環境などに、よりよい（ポジティブな）影響を与えるものであるかどうかを確認します。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「よりよい未来の実現への貢献」を掲げています。そのためには、応募企画が持続可能性を確保していること、あるいは持続可能性に配慮していることが求められます。それを踏まえ、応募企画が持続可能性を確保していることをできるだけアピールしてください。応募企画が持続可能性を確保している方がベストプラクティスにふさわしいと言えます。もし持続可能性を確保していることを説明することが難しい場合は、持続可能性にどのように配慮しているか、あるいは持続可能性の確保に悪影響を与えないようにしていることをアピールしてください。

持続可能性への配慮には、経済、社会、環境といった様々な側面があります。例えば、収益事業として成立しており事業を継続できること、不当労働などがなく活動の賛同者があり社会に持続的に受け入れられる活動であること、生態系に悪影響を及ぼさないこと、などが挙げられます。すべてを記述する必要はなく、持続可能性の確保に関して最も貢献しているところを強調してかまいません。

また、持続可能性を確保するだけでなく、よりよい（ポジティブな、プラスの）影響がある場合は、それをアピールしてください。課題解決というのが、ネガティブなもの、マイナスの状態のものを、ニュートラルなもの、プラスマイナスゼロの状態にすることを「持続可能性の確保」と呼ぶとすると、さらにポジティブなもの、プラスの状態にすることが「よりよい影響を与えるもの」と言えます。ニュートラルな状態を実現するより、ポジティブな影響を与える応募企画のほうが、ベストプラクティスにふさわしいと言えます。

No.18

万博来場者のような一般の人が理解でき、興味を持つような、取組内容の意義や内容を紹介する1分以内の動画（mp4またはwmv形式）をアップロードしてください。

【狙い】

この項目の狙いは二つです。

まず、応募企画の内容が、一般の人にも理解でき、興味を持つような内容であるかどうかを確認します。

また、応募する方が、応募企画を分かりやすく、楽しく学びを得られるような情報発信をしてくださるかどうかも確認します。

なお、アップロードされた動画は上の確認のためだけに用います。ベストプラクティスの動画として会場で投影したり、ウェブサイト上で公開したりすることはありません。

【解説】

ベストプラクティスは選定基準の一つとして「万博テーマとの親和性」を掲げています。万博には、様々な方々に学びを得る機会を提供する目的があります。そのため、応募企画の内容が、様々な方々にとって分かりやすく、学びになるようなものであることが分かるような動画をアップロードしてください。専門性が極めて高く、一般の人に理解が難しい応募企画より、一般の人に理解しやすい応募企画のほうがベストプラクティスにふさわしいと言えます。

また、応募企画の内容の分かりやすさとは別の面として、応募される方が、応募企画を万博の来場者に、分かりやすく、また、子どもなどにも楽しく伝えてくれるかどうかも重要です。ベストプラクティスに選ばれた方には、応募企画を来場者に紹介するための動画を、改めて作成してもらう予定です。万博には子供から大人まで、様々な方々が訪れます。こうした方々に、分かりやすく、さらにできれば楽しく学びを得られるような動画をつくってくださることが分かるような動画にしてもらえればと思います。

上のことが確認できるものであれば、すでに作成された動画であったり、自撮りした映像などでもよく、凝った映像を新たに作成する必要はありません。なお、繰り返しですが、アップロードされた動画は上の確認のためだけに用います。ベストプラクティスの動画として会場で投影したり、ウェブサイト上で公開したりすることはありません。

No.20

応募企画の実績を説明している文章、音、画像、動画などのWEB媒体があれば、そのURLを記述してください。権威のある団体、メディア媒体における記事掲載や、受賞されたものを含みます。(賞に関しては受賞証明書のコピーをアップロードすること)

【狙い】

応募企画が、実績のある取り組みであるのかを確認します。

【解説】

No.16で解説したように、効果が確実に出るかどうか分からない場合や、活動の宣言だけをしていてまだ実際の活動がない、といった応募企画よりも、効果が確実に出るような応募企画のほうがベストプラクティスにふさわしいと言えます。また、応募企画のここまでの記載内容が虚偽であったり、実態のない活動であったりする場合は、応募企画をベストプラクティスに選ぶことはできません。

そのため、応募企画が実績を伴うこと、実態のある活動であることが証明できるような情報を示してください。表彰実績が多い方がベストプラクティスに選ばれやすいということはありませんが、実績や活動の実態が全く確認できない場合は、ベストプラクティスに選ばれないことがあります。

No.

【狙い】

応募企画が、〇〇のかを確認します。

【解説】